

平成 28 年度 記者懇談会（第 7 回）の記録

日 時 平成 28 年 10 月 26 日（水）午後 3 時 30 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 7 人

同席者 阿部副市長、天野副市長、総務部長、企画財政部長、健康福祉部長、
建設部長

次 第 1 平成 29 年度予算編成方針について

2 平成 28 年度総合的雪対策の概要について

3 その他について



1 平成 29 年度予算編成方針について

説明内容

(市長)

それではよろしくお願いたします。

最初に平成 29 年度予算編成に向けた基本的な考え方についてでございます。

総論から申し上げますと国内経済の景気というところは、まだまだ弱さもみられますけれども、緩やかな回復基調が続くものというふうに見込まれているところでございます。国では、本年 6 月、閣議決定をいたしました経済財政運営と改革の基本方針、これに基づきまして、雇用・所得環境の改善などを背景に、経済再生・デフレ脱却に向けて大きく前進しているとしつつも、人口減少・少子高齢化などの構造的課題に対処する取組みを進めるとともに、地域経済に好循環をもたらす取組み、さらには、経済・財政一体改革を引き続き推進することとしております。

地方財政でございますが、安定的な財政運営に必要な一般財源総額が前年度と同程度の水準が確保される見通しとなっておりますが、引き続き、地方交付税制度改革や地方行政サービス改革の推進、財政マネジメントの強化が必要とされたところでございます。

岩見沢市でございますが、取り巻く財政環境につきましては、依然として国が見込むような地方税収入の伸びは期待できない、地方交付税においても大幅な減少が見込まれ、財源確保が極めて厳しい状況が続いているところでもございます。

私どもの中長期財政計画におけます今後の財政収支見通しにおいて、大幅な収支不足が見込まれる中で、社会経済情勢の変化や人口減少問題など山積する課題に対処するためには、持続可能な財政運営のもと、各施策の相乗効果を図るよう戦略的に取り組んでいくことが必要でございます。

このような中で、平成 29 年度の予算編成に当たりましては、岩見沢市を活力と笑顔あふれる元気で健康なまちにするため、最重要課題である人口減少問題の克服に向け、平成 27 年度に策定をいたしました「総合戦略」の施策を着実に推進するとともに、市民の安全・安心の確保、健康経営の推進、地域経済の活性化、大型プロジェクトの推進などの主要施策をはじめとして、これまで積み重ねてきた各施策のステップアップを図ってまいりたいと考えております。

また、各施策を推進するにあたりましては、ICT 基盤などの強みや豊かな自然環境などの優位性を最大限に活用するとともに、引き続き、行政改革大綱を踏まえた行財政改革を進め、多様な主体が同じベクトルに向かってチーム岩見沢として取り組むことを基本といたしまして、以下の点に留意した予算編成を行うこととしております。

まず、平成 29 年度予算編成方針の基本的な事項でございますが、1 つ目といたしましては、現場主義のもとで市民の意思を的確に市政に反映し、各施策の質・量・スピードを高め、市民が安全・安心を実感でき、市民の行政サービスに対する満足度を高めていく事業構築を進めてまいりたいと考えております。

2 つ目といたしましては、国庫補助金等の交付金化、社会保障制度改革や地方分権改革に伴う権限移譲などの制度改革に留意をいたしまして、関係府省等からの情報収

集に努め、国や北海道の政策動向を的確に把握した上で適切な対応を図ることとしております。

3つ目といたしましては、合併後の状況を踏まえ、引き続き地域の特性や環境を活かした一体性の確立と均衡ある発展が図られるよう必要な見直しを行うこととしております。

4つ目といたしましては、事業目的別予算編成の手法により、事務事業につきましては、その必要性、効率性、有効性などを検証するとともに、組織横断的な発想を持って、選択と集中による限られた経営資源の最適な配分を図って、効率的に事業効果が発揮されるよう必要な見直しを行った上で予算要求することとしております。

次に重点分野でございます。平成 29 年度は、総合戦略の計画期間の 3 年目にあたる年でございます。総合戦略関連施策を最重要施策と位置づけ、これまで先行して取り組んできた関連施策による一定の効果がでてきていることを踏まえ、より一層、事業のパッケージ化等による相乗効果が図られるよう検討を行い、関連施策の着実な推進を図ることといたしました。

また、岩見沢の持つ強みや優位性を磨き伸ばしていき、市民の満足度を高める施策を展開するため、「5つの重点分野」を位置づけたところでございます。

1つ目は、「市民の安全・安心な暮らしを守り、強靱で美しいまちづくり」でございます。これは、市政の基本であります市民の安全・安心の確保と環境にやさしい、快適な市民生活の向上に資する事業でございます。

2つ目は、「市民が健康で幸福を実感できるまちづくり」でございます。これは、市民がいつまでも健康で生きがいを持って暮らせるよう、福祉・医療の充実や健康寿命の延伸、健康コミュニティの構築や推進に資する事業でございます。

3つ目は、「子ども・子育て環境の充実と芸術文化・スポーツのまちづくり」でございます。これは、生まれる前からの切れ目のない子育て支援や質の高い教育環境と生涯学習の充実、芸術文化・スポーツの振興に資する事業でございます。

4つ目が、「地域産業・経済が元気なまちづくり」でございます。これは、基幹産業である農業の発展や、創業への総合的な支援、中心市街地の活性化、地域特性を活かした新たな産業の創出などによる雇用の拡大と地域産業・経済の活性化に資する事業でございます。

5つ目は、「市民とともに築く、自立したまちづくり」であります。これは、全ての重点分野を着実に推進するための基盤として、まちづくり基本条例の基本理念のもと、市民が市政に参画する仕組みの構築を進めるとともに、行財政改革により将来にわたり持続可能な行政運営に資する事業でございます。

以上を、平成 29 年度の予算編成に当たっての、基本的事項、重点分野として示させていただきますところでございます。

以上でございます。

質疑応答

(プレス空知)

例年重点分野は4項目が出ていたと思うのですが、今回5項目に増やしたというよりは(2)と(3)をあえて分割して柱にしていらっしゃるのかなと思うのですが、その分割したねらいと、市長の目指す姿を教えてください。

(市長)

ご指摘のとおりでして、去年は確か「市民の健康な暮らしと子ども子育ての支援」ということで一つの分野だったんですけども、子育て支援、子ども対策に厚みが出てきたことと併せて健康経営都市ということも含めての健康づくり、これについても一定の厚みが出てきたのでこの際それを2つに分ける。そして全体としては5つの重点分野なんですけれども、一番最後が市民とともに築くまちづくりといった分野については、去年の4番目の重点分野なんですけれども、1から4までのそれぞれの重点分野に横串を通すような基盤として考える。5つの重点分野なんですけれども、意味合いとしてはフォープラスワンみたいな形かなというふうに思っているんですけども、それぞれ重点であることには違いがないので、重点分野を分けてより分かりやすく、厚みが付いたものを独立させたというイメージになるかと思います。

(プレス空知)

編成方針として昨年との大きな違いというか、ここはという目を引くようなものが見当たらないような感じがするのですけれども。

(市長)

予算の編成方針なので、歳入をきちっと見積もったうえで、どういう点に留意をして予算を構築しなさいという方針なんですけれども、この作業を経て新年度に向かっていくわけなんですけれども、基本的には総合戦略の着実な推進、これが第一だと思います。これからの取り組みですけれども、28年度から既に取り組みは始まっていますけれども、各施策のレベルアップということで、象徴的には、総合的な雪対策の分野では間口の置き雪対策について何とか切り込んでいきたいというような検討とか。さらには健康づくりのところでは、健康経営都市ということで、健康づくりはもちろんですけれども、健康コミュニティの構築といった分野にもしっかりとした取り組みをしていきたい。それから全体に共通することでもありますし、総合戦略にも記載している事業ですけれども、ICT基盤を使うというようなことで特に産業分野ではICT農業、特にスマート農業を雇用の創出とともに取り組んでいく。そういったICT基盤という強みを生かしていく、そうしたものをしっかりやっていく。さらに平成29年度は普通建設事業費の中で大型プロジェクトがいくつか入ってくることとなります。学校給食の共同調理所の事業も継続となりますし、新しい消防庁舎の建設工事。それから、本格的な議論をすることとなりますけれども、市の庁舎の問題についても具体的な検討に入るといった状況となりますので、そういったところがポイントになってくるのかなというような気がします。

2 平成 28 年度総合的雪対策の概要について

説明内容

(市長)

それでは、今年のご総合的雪対策につましましてご説明をさせていただきます。

岩見沢市では、平成 23 年から平成 24 年にかけての記録的な豪雪、総降雪量 11m11 cm という記録的な豪雪を教訓といたしまして、迅速な除排雪対応に加えまして、情報提供の充実や高齢者等の除雪弱者への支援などを盛り込んだ総合的な雪対策を平成 24 年度から実施をしているところでございます。

以来、全庁的な体制、横のつながり、そういったものを強化してまいりましたので、この 4 年間で定着をした事業も色々多くございますけれども、2 期目を迎えた 5 年目の冬も、もっと効率的な考え方はないか、工夫できないかなど、市民の皆様の安全安心な冬の暮らしを確保するために、雪対策の充実を目指して、取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

その概要につましましては、資料にまとめておりますので、その資料に基づいて、ご説明させていただきますと思います。

最初に本部体制でございます。岩見沢市の雪対応における大きな特長の一つでございますが、冬に向けて全庁体制による除排雪対策本部を今年も立ち上げることでございます。

【2】の「対策本部の体制」のうち、本部事務局の人数につましましては、昨年度と同規模の体制を予定しているところでございます。

また、②番に、赤字で示しておりますように、11 月 15 日に本部を設置いたします。場所は、水道庁舎の 2 階、昨年と同じ場所を予定しています。

また、③番の表にありますように、本部体制につましましては、気象状況や道路の状況により、5 段階の体制を構築するというふうにしています。

仮に大雪となった場合でも、本部体制を速やかに拡充できるよう、日頃から備えておくよう、担当部局、また全庁の職員にも伝えているところでございます。

【3】の「電話の受付体制」でございますが、本部設置に伴いまして、例年どおり、専用回線 22 局の 8400 番を開設いたします。

次に『除排雪事業』でございます。はじめに、道路除排雪に関する項目といたしまして、【1】の「岩見沢市における道路除排雪の特長」といたしまして、①番から⑤番まで、主な取り組みを書かせていただきました。

この中で、③番、除排雪用機械の計画的な更新・増強につましましては、これまでも積極的に進めてまいりましたが、今年、さらに 1 台大型ロータリー除雪車を購入いたします。これで、大型ロータリー除雪車につましましては、予備機も入れ全部で 12 台の体制となりますので、排雪や拡幅作業も、より迅速に対応できるものと考えております。

また、⑤番、ICT を活用した除排雪業務につましましては、これまで、農業用 GPS ガイダンスを除排雪機械に取り付け実験してまいりました。

この実験の中で、例年 3 月に行っております未除雪路線の雪割り業務に活用した場合、特に高い効果があることが分かりましたので、この業務については、今年から本格的に導入したいと思っております。

次に【2】の「除排雪延長」ですが、昨年と大きな変更はございません。

資料の方は 2 ページに移らせていただきます。道路除排雪【3】の「除排雪作業の出動時間等」につきましても、昨年と変更はございません。

次に地域との協働でございます。引き続き、市内 3 地区の地域除雪センターの開設に向けて支援するとともに、町会が行う地域自主排雪におきましても、実施町会の増加に伴いまして、平日枠を設けるなど柔軟な対応をしてみたいと考えております。

次に雪堆積場の項目でございます。【1】の「市民雪堆積場」でございますが、これまでの課題でもありました市内西側の市民雪堆積場につきまして、12 月の下旬には上幌向町で開設できる運びとなっております。

別紙でございますが、上幌向町雪堆積場の位置図を添付してございますが、利根別川の北、第二小学校の西側の赤い長方形で示した部分になります。学校や住宅地にも近いといったことから、赤い矢印の運搬経路に迂回するようお願いするとともに、開設時間も今年度は午前 9 時から午後 6 時までと、既設の市民雪堆積場よりは短縮した形で運営することと考えております。

次に【2】の地域雪堆積場では、公園の雪入れにつきまして、今年は地域自主排雪と連動した公園への投雪実験を行いたいと思っております。公園内を区分けいたしまして投雪した場合の効果や課題の整理も行ってまいりたいと考えております。

次に、2 ページから 3 ページにかけての『情報提供』でございます。

情報提供に関しましては、すでに伝達手段を多様化いたしまして、情報提供内容の充実を図ってまいりましたので、大きく今年変わったところはございませんが、運用の中で、こういった情報も発信した方がよいというものもあろうかと思っております。臨機応変に対応してまいりたいと考えてございます。

また、特に大雪や暴風雪の時には、市民の皆様には混乱が起きないように、的確で速やかな情報発信に努めてまいりたいと考えております。

次に弱者支援対策の項目でございます。【1】の「弱者等調査支援活動」でございますが、大雪時には、通常の本部体制とは別に、48 名の職員を追加動員いたしまして、1 班 3 名の 16 班体制、これによりまして高齢者世帯などを訪問し、声かけを行いながら、必要な場合には、通路の確保や排気口廻りの除雪支援を行っているものでございます。昨年は 2,539 世帯を調査し、うち 66 世帯に対しまして、除雪支援を行ったところでございます。

【2】の「高齢者世帯等雪下ろし助成」でございます。平成 24 年度から助成を開始して、これまで 2 回の要件緩和を行っております。使い勝手が良くなったこともあって、昨年は 128 件の助成を行ったところでございます。

【3】の「地域除排雪活動支援事業」と【4】の「除雪ボランティア」につきましても、引き続き、社会福祉協議会と連携を図りまして、いわゆる除雪弱者の方々を支援してまいりたいと考えておりますが、高齢化が進み除雪弱者が増える一方で、町会等の支援する側も高齢化が進み、担い手の確保がやはり課題となってきております。

除雪弱者の間口置き雪対策につきましては、この冬から本格的な検討をしてまいりたいと考えているところでございます。

今年度は、近年増えております間口除雪を請け負う民間の除雪サービス、この民間サービスが、地域の中でどのように活用できるか、その可能性を調査するとともに、こういったクオリティが高くてより料金が安いサービスが広く全市的にも展開、あるいは活用できないものか、といった点も課題を整理していきたいと考えているところでございます。

次に安全対策でございます。雪による市内の人的な被害のうち、約半数は、雪下ろし作業中の転落事故というふうになっておりますので、特にご高齢の方におかれましては、雪下ろしを民間事業者などに依頼することをお勧めしておりますけれども、ご自分で雪下ろしをされる場合には、命綱やヘルメットなど、安全装備の着用をお願いしているところでもございます。

市といたしましても、安全対策の一環として、安全装備の3点セットの貸し出しを行うとともに、ガイドブックも作成しておりますので、ご活用いただきたいと思いますと考えているところでございます。

最後に空き家対応でございますが、引き続き、対策本部に空き家対応を専任する班を設け、空き家パトロールを強化してまいりたいと考えております。

なお、市外にお住まいの所有者の方に対しましても、これまで同様、状況写真などを送付することで、危険な状態を把握していただき、速やかに雪下ろし等のお願いをしていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

質疑応答

(プレス空知)

ICTを活用した除排雪業務の未除雪路線の雪割り業務の想定延長はどのくらいなんですか。また、何カ所あるのですか。

(建設部長)

未除雪区間が130kmあるんですけども、そのうちの37km程度です。

(市長)

37kmで49カ所という数字です。正確にいきますと未除雪路線は132.8kmで37kmをやるんですが、最終的には全てに設置をしたいということで目指して取り組んできているということです。

(プレス空知)

間口除雪関連なんですけれども、調査を今年度やるとのことなんですけれども、安価ではいいんですけれども、クオリティの高いというのは、どこまでを求めて調査するのか、クオリティの定義をどの程度におくのか教えてください。

(市長)

私どもの調査の対象の事業としている実情は、2トントラックにバケットですくって積んで、それを自前の雪の処理場のところに運んで処理をしている。ですから押し付けていくのではなくてそういった処理をやって、除雪のセットとは別にそういったセ

ットが動いている。連携しながらも支障なくそういったことをカバーできる、ただし費用も発生する。ですから料金だけ高くてあまりうまくやってくれないということもあるのかもしれませんが、もっと安いところでもっと高度なサービスを提供できるという実情もあるのかもしれませんが。実態がまずどうなのかということと、モデル的に非常に評判のいいというところが全市展開できるのかといったところの調査も含めて色々と検証してみたいと。それが一つのビジネスとして成り立ち得るのであれば、そういう考え方もあるのではないかとということです。

(プレス空知)

今回の公園を活用した雪置きなんですけど、今年は自主排雪と連動した形での試行をするということなんですけれども、最終的には今回のような自主排雪と連動した取り組みが着地点となるのでしょうか。

(市長)

それはわからないですけども、去年は公園を中心として一定のエリアしか効果を発揮できないということで、そのエリアから外れるところの方にとっては実は不満が残るんです。そういう結果も出ているんですね。ですからいくつもそう雪を入れる公園があるわけではないので、地域が自主排雪を行っている町会であれば、本当は運搬排雪でトラックで運ぶ分のうちいくらかでも、公園にロータリー車で雪を入れることによって、運搬排雪の回数を減らして町会の自己負担を減らすことができるのではないかと、そういう活用方法もあるのではないかと。

(建設部長)

例えば自主排雪で、公園の近くの路線が対象になっていれば、公園に近いところについてはそこに投雪するという考え方で、トータルとして他の路線もやるわけですから結果として何ら変わらないわけなんです。一部が公園に置かれるというだけで。

(プレス空知)

1,000mのスパンのうち公園がここにあって、この区間がだいたい200mくらいであれば、この部分は公園に雪入れするけれども、残りの両脇の区間は従来通りでのダンプでの排雪という流れになるんですね。

(市長)

やり方なんだろうけれども、かき出した雪を公園の間際まで持って行ってそれはロータリーで公園の中に入れてしまう。それが効率的でないところは従来通りかき出した雪をロータリーでダンプに積んで運搬排雪に移行する。効率的な作業ができるのではないかと。

(プレス空知)

そのへんをどうゆうふうにするのかというのは、町会と協議をしてどの程度やりましょうかということですかね。

(市長)

やはり、公園に雪を入れれば公園を使う時期が遅くなるというのは間違いはないですから。

(NHK)

安全対策での安全装備の無料貸し出しなんですけれども、雪下ろし中の事故というのは、高齢者の方ですとか危険が予想される方へはどういった注意喚起をするのかを教えてください。

(市長)

安全装備の貸し出しはヘルメットと安全带とロープなんですけれども、それは講習会を開いています。安全に利用のためのガイドブックを渡して使っていただくということで、安全については十分配慮しています。先程も申し上げましたとおり無理をしないで業者の方に頼めるときは頼んでもらうということで、それについては経済的弱者の方には助成措置もありますし、積極的にお勧めしているわけではないですけれども、どうしてもやるというときには安全事項を改めてガイダンスするとともに、そういったものを貸出ししているということです。

(NHK)

貸出しを始めてからは、特に雪下ろしの事故というのはいないですか。

(総務部長)

使用してでの事故はないですね。ただ、使わないでの事故はあります。

3 その他について（記者からの質問）

質疑応答

なし

（注）記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。（作成：岩見沢市秘書課広報係）